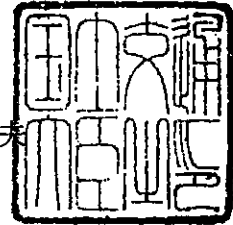


認 定 書

国住参建第 2324 号
令和 3 年 12 月 20 日

フクビ化学工業株式会社
代表取締役社長 八木 誠一郎 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号（屋根：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP030RF-2004(2)
2. 認定をした構造方法等の名称
葺材 [アルミニウム合金板製、めっき鋼板製、ステンレス鋼板製、銅合金板製又はチタン板製]・下地材 [めっき鋼板製又はステンレス鋼板製]・フェノールフォーム板・硬質木片セメント板表張/軽量鉄骨下地屋根
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

葺材 [アルミニウム合金板製、めっき鋼板製、ステンレス鋼板製、銅合金板製又はチタン板製] ・下
地材 [めっき鋼板製又はステンレス鋼板製] ・フェノールフォーム板・硬質木片セメント板表張/軽
量鉄骨下地屋根

2. 仕様の寸法：

仕様の寸法を表1に示す。

表1 仕様の寸法

項 目	仕 様
支持部材間隔	構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法
たるき間隔	607mm以下
葺材	仕様：折板葺 働き幅：250～800mm 山高：16mm以上

3. 仕様の主構成材料：
仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 仕様の主構成材料

項目	仕様
たるき	<p>材料：①又は②</p> <p>①一般構造用軽量形鋼(JIS G 3350)</p> <p>②一般構造用角形鋼管(JIS G 3466)</p> <p>さび止め塗装：あり又はなし</p> <p>塗料：鉄鋼用水性特殊変成アクリル樹脂プライマー(JIS K 5621)</p> <p>形状：C形又は角形</p> <p>寸法：C形；100×50×20×2.3mm以上</p> <p>角形；100×50×2.3mm以上</p> <p>間隔：607mm以下</p>
葺材	<p>仕様：(1)～(5)の一</p> <p>降伏点：仕様(1)；35N/mm²以上</p> <p>仕様(2)～(5)；205N/mm²以上</p> <p>表面塗装の有機質量：65g/m²以下</p> <p>但し、図13に示す鋼板(材料は葺材(2)鋼板の⑰～⑳と同じ)の単板を一体成型した複合板を用いる。</p>
(1)アルミニウム合金板	<p>材料：①～④の一</p> <p>①カラーアルミ(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8597、8598)</p> <p>②アルミニウム板(JIS H 4000)</p> <p>③塗装アルミニウム合金押出形材又は塗装アルミニウム板(JIS H 4100、JIS H 4001、JIS H 8602)</p> <p>④両面合成樹脂塗装/アルミニウム合金板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-3555)</p> <p>厚さ：0.6mm以上</p>
(2)めっき鋼板	<p>材料：①～⑬の一</p> <p>①塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322)</p> <p>②溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)</p> <p>③塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)</p> <p>④溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)</p> <p>⑤塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318)</p> <p>⑥溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)</p> <p>⑦溶融アルミニウムめっき鋼板(JIS G 3314)</p> <p>⑧両面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-9583、9584)</p> <p>⑨フッ素樹脂系塗装/両面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-9662)</p> <p>⑩両面アクリル樹脂系塗装/亜鉛めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8341、8514)</p> <p>⑪両面ポリエステル樹脂系塗装/溶融アルミニウムめっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-1863)</p> <p>⑫塗装/亜鉛めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8697)</p> <p>⑬溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323)</p>

つづく

つづき

葺材	(2)めっき鋼板	<p>⑭フッ化ビニリデン樹脂系塗装/両面アクリル・塩化ビニル樹脂系塗装/亜鉛合金めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8400)</p> <p>⑮アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8027)</p> <p>⑯ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8028)</p> <p>⑰ウレタン樹脂系塗装亜鉛合金板張/合成樹脂塗装鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NE-0040、NE-0044)</p> <p>⑱亜鉛合金板張/合成樹脂塗装鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NE-0041、NE-0045)</p> <p>⑲ウレタン樹脂系塗装亜鉛合金板張/鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NE-0042、NE-0046)</p> <p>⑳亜鉛合金板張/鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NE-0043、NE-0047)</p> <p>㉑塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8674～NM-8696)</p> <p>但し、㉑の金属板はアルミニウム及びアルミニウム合金板を除く</p> <p>㉒高耐候性圧延鋼板(JIS G 3125)</p> <p>㉓電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313)</p> <p>厚さ：材料①～⑯及び㉑～㉓；0.35(-0.05)mm以上 材料⑰～⑱；1(-0.1)mm以上</p>
	(3)ステンレス鋼板	<p>材料：①～③の—</p> <p>①ステンレス鋼板(JIS G 4304、JIS G 4305)</p> <p>②塗装ステンレス鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8316～NM-8326)、(JIS G 3320)</p> <p>③樹脂充てん/両面塗装ステンレス鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8327～NM-8332)</p> <p>厚さ：0.35(-0.05)mm以上</p>
	(4)銅合金板	<p>材料：伸銅品(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8586～NM-8595)、(JIS H 0500、JIS H 5120)</p> <p>厚さ：0.3mm以上</p>
	(5)チタン板	<p>材料：チタン展伸材(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8596)、(JIS H 4600、JIS H 4657)</p> <p>厚さ：0.3mm以上</p>
下地材	仕様：(1)又は(2)	
	(1)めっき鋼板	材料：葺材(2)めっき鋼板と同じ 但し、葺材(2)めっき鋼板の材料⑰～⑳を除く
	(2)ステンレス鋼板	材料：葺材(3)ステンレス鋼板と同じ

つづく

裏打材	<p>仕様：あり又はなし 厚さ：10mm以下 密度：25kg/m³以上 種類：(1)又は(2)</p> <p>(1)合成樹脂系 材料：①～⑤の一</p> <p>①ポリエチレンフォーム 組成(質量%)： ポリエチレンフォーム 99.5以下 発泡剤等 0.5以上</p> <p>②難燃ポリエチレンフォーム 組成(質量%)： ポリエチレンフォーム 87.0以下 難燃剤(テトラプロモフタルイミド等) 8.7以上 無機質 4.3以上</p> <p>③無機質高充てんフォームプラスチック 組成(質量%)： ・有機系樹脂：43以下 エチレン酢ビ共重 34.4～40.8 オレフィン系樹脂 2.2～ 8.6 ・無機質系充てん剤：46以上；1)又は2) 1)水酸化マグネシウム； 21以上 水酸化アルミニウム； 23以上 三酸化アンチモン； 2以下 2)水酸化アルミニウム； 38以上 三酸化アンチモン； 8以下 ・難燃剤他； 11以上 臭素系難燃剤； 7以上 三酸化アンチモン； 4以下</p> <p>④ポリエチレン系樹脂 組成(質量%)： ポリエチレン系樹脂 37.5(±3.7) 水酸化マグネシウム 22.3(±2.2) 水酸化アルミニウム 23.8(±2.3) 三酸化アンチモン 3.8(±0.4) 臭素系難燃剤 11.5(±1.1) 有機系顔料 1.1(±1.1)</p> <p>⑤ポリエチレン系樹脂 組成(質量%)： ポリエチレン系樹脂 40.0(±4.0) 水酸化マグネシウム 32.0(±3.2) 水酸化アルミニウム 14.0(±1.4) 三酸化アンチモン 4.0(±0.5) 臭素系難燃剤 9.0(±0.9) 有機質系添加剤(ヒンダートフェノール系) 酸化防止剤等 0.5(±0.05) 有機系顔料(アゾ系顔料等) 0.5(±0.05)</p>
-----	--

裏打材	<p>(2)無機質系 材料：①～⑥の一</p> <p>①ポリエステル系繊維不織布張/グラスウール保温板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-8375)</p> <p>②ポリエステル樹脂系繊維不織布張ガラス繊維シート 構成：1)及び2)</p> <p>1)ガラス繊維シート 組成(質量%)： ガラス繊維 82以上 ポリエステル樹脂 13以下 アクリル樹脂 5以下</p> <p>2)ポリエステル樹脂系繊維不織布 単位面積質量：40g/m²以下</p> <p>③合成樹脂エマルジョン処理ポリエステル不織布張ガラス繊維シート 構成：1)及び2)</p> <p>1)ガラス繊維シート 組成(質量%)： ガラス繊維 90以上 ポリエステル樹脂 10以下</p> <p>2)合成樹脂エマルジョン処理ポリエステル不織布 構成：a)及びb)</p> <p> a)ポリエステル不織布20g/m²以下(片面10g/m²以下) b)合成樹脂エマルジョン30g/m²以下(片面15g/m²以下)</p> <p>組成(質量%)： リン含クロル系(防炎剤) 50(±5) 塩化ビニルエマルジョン 40(±4) アクリルエマルジョン 10(±1)</p> <p>単位面積質量：50g/m²以下(片面25g/m²以下)</p> <p>④ポリエステル不織布張ロックウールフェルト 構成：1)及び2)</p> <p>1)ロックウールフェルト 組成(質量%)： ロックウール 97以上 アクリル樹脂 3以下</p> <p>2)ポリエステル不織布 単位面積質量：15g/m²以下</p> <p>⑤ポリエステル不織布張アルミナシリケート繊維不織布シート 構成：1)及び2)</p> <p>1)アルミナシリケート繊維不織布シート 組成(質量%)： アルミナシリケート繊維 96以上 エチレン酢酸ビニル樹脂 4以下</p> <p>2)ポリエステル不織布 単位面積質量：15g/m²以下</p> <p>⑥人造鉱物繊維保温材(JIS A 9504)</p>
野地板	<p>材料：硬質木片セメント板(JIS A 5404) 厚さ：18(-1.5)～25(+2)mm 密度：1.1(-0.1)g/cm³以上</p>
化粧板	<p>仕様：なし</p>

断熱材	<p>材料：①～⑨の一</p> <p>①フェノールフォーム板(JIS A 9511 又は JIS A 9521) 構成：1)及び2) 1)フェノール樹脂発泡体 組成(質量%)： フェノール樹脂 94(±2) 発泡材 6(±2) 密度：40(±5)kg/m³</p> <p>2)面材(両面) 材料：a)～c)の一</p> <p>a)無機質充てんガラス繊維不織布 厚さ：0.26(±0.025)～0.5mm(片面) 単位面積質量：102(±8)～150g/m²</p> <p>b)アルミニウム箔張ガラス繊維不織布 厚さ0.26(±0.025)～0.5mm(片面) 単位面積質量：102(±8)～600g/m²</p> <p>c)無機系の加工紙(けい酸マグネシウム紙、ガラス繊維紙、ガラス繊維混抄紙、アルミニウムはく・ガラス繊維複合紙、アルミニウムはく・ガラス繊維混抄複合紙) 厚さ：0.26(±0.025)～0.5mm(片面) 単位面積質量：102(±8)～600g/m²</p> <p>②両面合成樹脂・ガラス繊維不織布混抄紙張フェノールフォーム裏張/ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2596)</p> <p>③両面合成樹脂・ガラス繊維不織布混抄紙張フェノールフォーム裏張/ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張合成樹脂塗装アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2594)</p> <p>④両面合成樹脂・ガラス繊維不織布混抄紙張フェノールフォーム充てん/両面ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2592)</p> <p>⑤両面合成樹脂・ガラス繊維不織布混抄紙張フェノールフォーム充てん/両面ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張合成樹脂塗装アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2590)</p> <p>⑥両面合成樹脂・ガラス繊維不織布混抄紙張フェノールフォーム充てん/両面ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張アクリル系樹脂塗装アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2209)</p> <p>⑦両面合成樹脂・ガラス繊維混抄紙張フェノールフォーム充てん/両面ガラス繊維ネット・ガラス繊維不織布裏張合成樹脂塗装アルミニウム合金はく (国土交通大臣認定不燃材料：NM-1973)</p> <p>⑧両面ガラス繊維混抄紙フェノールフォーム裏張/合成樹脂塗装水酸化アルミニウム紙張アルミニウム合金はく(国土交通大臣認定不燃材料：NM-2829)</p> <p>⑨両面ガラス繊維混抄紙フェノールフォーム裏張/水酸化アルミニウム紙張アルミニウム合金はく(国土交通大臣認定不燃材料：NM-2830)</p> <p>厚さ： 裏打材なしの場合：100(±10)mm 裏打材ありの場合：25(±2)～100(±10)mm 但し、単張、接着剤を用いた①の重張、又は①及び②～⑧の重張</p>
-----	--

4. 仕様の副構成材料：

仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 仕様の副構成材料

項目	仕様										
たるき取付金具	<p>材料：①及び②</p> <p>①一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 山形鋼L-75×50×6mm以上</p> <p>②一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101) 平鋼FB-6×75×65mm以上(たるきダブル部位仕様)</p> <p>取付間隔：607mm以下 留付材：アーク溶接 溶接幅：3mm以上 隅肉溶接長さ：20mm以上 取付箇所：4箇所以上</p>										
たるき留付材	<p>材料：①及び②又は③</p> <p>①六角ボルト(JIS B 1180) 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：M12×長さ25mm以上</p> <p>②ナット(JIS B 1181) 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：M12以上</p> <p>③アーク溶接 溶接幅：2.0mm以上 隅肉溶接長さ：10mm以上</p>										
野地板留付材	<p>材料：タッピンねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4(-0.4)×長さ37(-3)mm以上 留付間隔：405mm以下</p>										
防水材	<p>材料：①～⑦のー</p> <p>①アスファルトルーフィングフェルト(JIS A 6005) 単位面積質量：1500g/m²以下</p> <p>②合成高分子系ルーフィングシート(JIS A 6008) 厚さ：1.5mm以下</p> <p>③改質アスファルトルーフィングシート(JIS A 6013) 厚さ：2.5mm以下</p> <p>④透湿防水シート(JIS A 6111) 厚さ：0.4mm以下</p> <p>⑤透湿ルーフィングシート 組成(質量%)：</p> <table border="0"> <tr> <td>基材：ポリエチレン不織布</td> <td>70.9(±3.0)</td> </tr> <tr> <td>表面材：ポリエステル不織布</td> <td>19.0(±2.0)</td> </tr> <tr> <td>接着剤：エチレン-プロピレン共重合体</td> <td>5.0(±0.5)</td> </tr> <tr> <td>防滑剤：ブタン内包発泡/アクリル樹脂</td> <td>3.2(±0.3)</td> </tr> <tr> <td>防滑剤：スチレン-アクリル酸共重合体</td> <td>1.9(±0.2)</td> </tr> </table> <p>厚さ：0.41(±0.1)mm以下</p>	基材：ポリエチレン不織布	70.9(±3.0)	表面材：ポリエステル不織布	19.0(±2.0)	接着剤：エチレン-プロピレン共重合体	5.0(±0.5)	防滑剤：ブタン内包発泡/アクリル樹脂	3.2(±0.3)	防滑剤：スチレン-アクリル酸共重合体	1.9(±0.2)
基材：ポリエチレン不織布	70.9(±3.0)										
表面材：ポリエステル不織布	19.0(±2.0)										
接着剤：エチレン-プロピレン共重合体	5.0(±0.5)										
防滑剤：ブタン内包発泡/アクリル樹脂	3.2(±0.3)										
防滑剤：スチレン-アクリル酸共重合体	1.9(±0.2)										

つづく

つづき

<p>防水材</p>	<p>⑥防水・透湿シート 組成(質量%)： 高密度ポリエチレン 98(±2) 添加剤(酸化・紫外線劣化防止剤等) 1(±1) コーティング剤(アクリル樹脂系等) 0.7(±0.1) アルミニウム 0.3(±0.1) 厚さ：0.5(±0.1)mm以下</p> <p>⑦粘着透湿ルーフィング 組成(質量%)： 不織布(両面)：ポリプロピレン 75.758(±2.5) フィルム：ポリエチレン 4.546(±0.5) 接着剤：ポリウレタン/ポリエチレン 10.605(±1.1) 粘着剤：ポリウレタン/アクリル酸オクチル 9.088(±0.9) 有機顔料：インク 0.003(±0.01) 厚さ：1.0mm以下(有機質量：132(±13)g/m²以下) 有機質量：1500g/m²以下</p>
<p>たるき用耐火被覆の留付材</p>	<p>たるき用耐火被覆の材料が繊維混入けい酸カルシウム板の場合に使用： 材料：①及び②</p> <p>①タッピングねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4(-0.4)×長さ40(-4)mm以上 留付間隔：400mm以下</p> <p>②接着剤 材質：けい酸ナトリウム系 塗布量：200g/m²以上</p>
<p>吊子</p>	<p>材料：葦材と同じ材質 寸法： 厚さ；0.35mm以上(但し、アルミニウム板は厚さ0.6mm以上) 幅；35(-2)mm以上 長さ；56(-5)mm以上 取付間隔：1820mm以下(仕様(6)は両端に取付ける)</p>
<p>裏打材固定用接着剤(裏打材を使用する場合)</p>	<p>仕様：裏打材を用いる場合 種類：①～⑤のー ①スチレンブタジエンゴム系 ②アクリル系樹脂 ③ウレタン系樹脂 ④合成ゴム系 ⑤エポキシ系樹脂 塗布量：50g/m²以下(有機質量)</p>
<p>吊子留付材</p>	<p>材料：1)及び2) 1)六角ボルト 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：M6×長さ20mm以上 2)ナット 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：M6以上</p>
<p>タイトフレーム</p>	<p>材料：葦材と同じ材質 厚さ：0.35mm以上(但し、アルミニウム板は厚さ0.6mm以上) 取付間隔：800mm以下</p>

つづく

つづき

タイトフレーム 留付金具	材料：①又は② ①タッピンねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：呼び径φ4(-0.4)×長さ20(-2)mm以上 ②アーク溶接 溶接幅：2.3mm以上 隅肉溶接長さ：20mm以上
キャップ	仕様：あり又はなし(はげ締め仕様の場合) 材料：葦材と同じ材質 厚さ：葦材と同じ寸法(但し、アルミニウム板は厚さ0.6mm以上)
止水材	仕様：あり又はなし 材料：①又は② ①合成ゴム系(EPDM系又はブチルゴム系)及び粘着剤(アクリル系又はブチルゴム系) ②ホットメルト 使用量：45(+5)g/m以下 幅：50(+5)mm以下
ジョイナー	仕様：あり又はなし 形状：(1)又は(2) (1)T形 (2)H形 材質：鋼製又はステンレス鋼製 厚さ：0.27mm以上(但し、ステンレス鋼製の厚さ：0.3mm以上) 寸法：30×9×0.27mm以上 塗装の材質：1)～6)の一 1)ポリエステル系 2)アクリル系 3)ウレタン系 4)エポキシ系 5)シリコン系 6)アクリルウレタン系 塗布量：28.5(+3)g/m ² 以下
養生シート	仕様：あり又はなし 材料：防水材と同じ材質 有機質量：1500g/m ² 以下
補強ジョイナー (補助たるき)	仕様：あり又はなし 材料：葦材と同じ材質 厚さ：葦材と同じ寸法 形状：(1)～(3)の一 (1)Z形 (2)H形 (3)ユ形 取付間隔：1820mm以下
補強ジョイナー (補助たるき)留 付材	材料：タッピンねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法：胴部径φ4(-0.4)×長さ16(-2)mm以上 留付間隔：1000mm以下

つづく

つづき

断熱材留付材	材料：タッピンねじ 材質：鋼製又はステンレス鋼製 寸法： 断熱材厚さ25mm以上の場合；呼び径 $\phi 4(-0.4) \times$ 長さ36(-3)mm以上 断熱材厚さ100mm以上の場合；呼び径 $\phi 4(-0.4) \times$ 長さ115(-3)mm以上 留付間隔：断熱材端部の四隅以上 (但し、補強ジョイナーを使用する場合は端部2箇所以上)
--------	--

5. 仕様の構造説明図：

仕様の構造説明図を図1～図3に示す。

図中の単位については、特記のない限りmmとする。

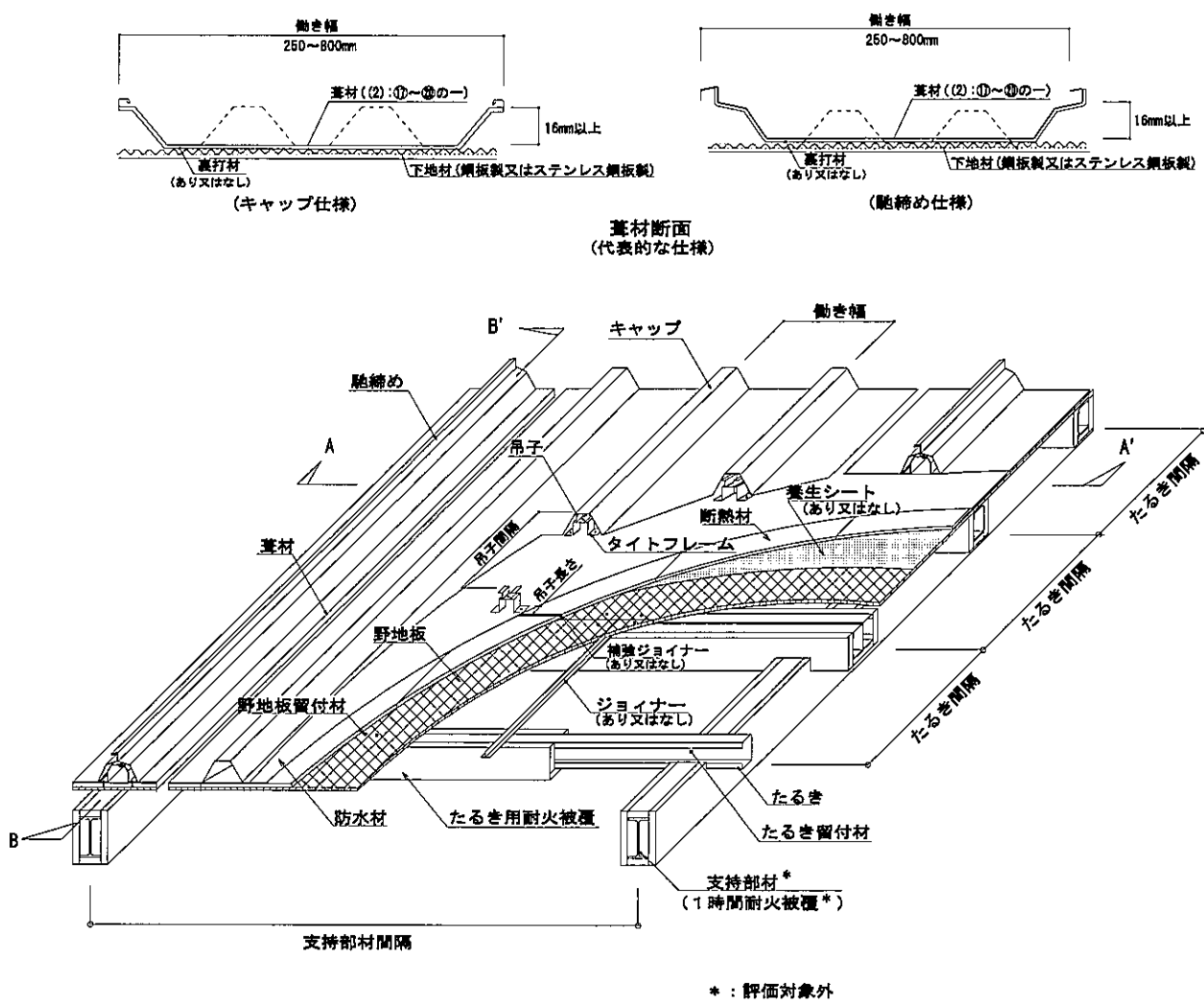
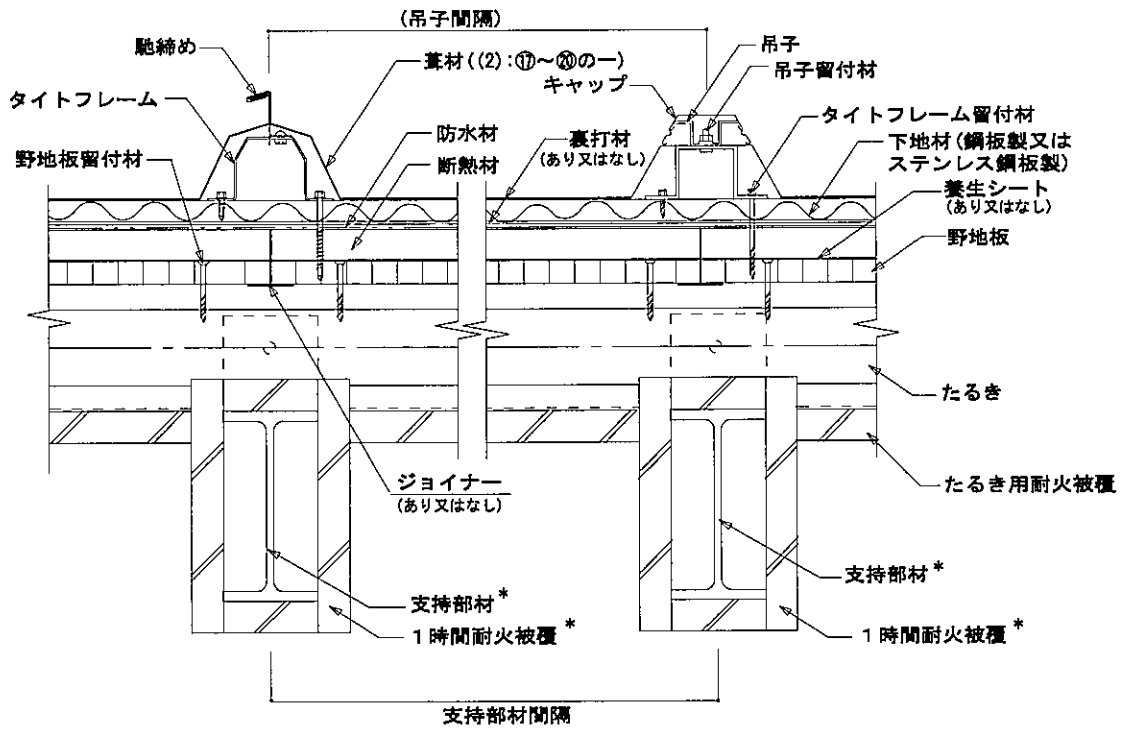
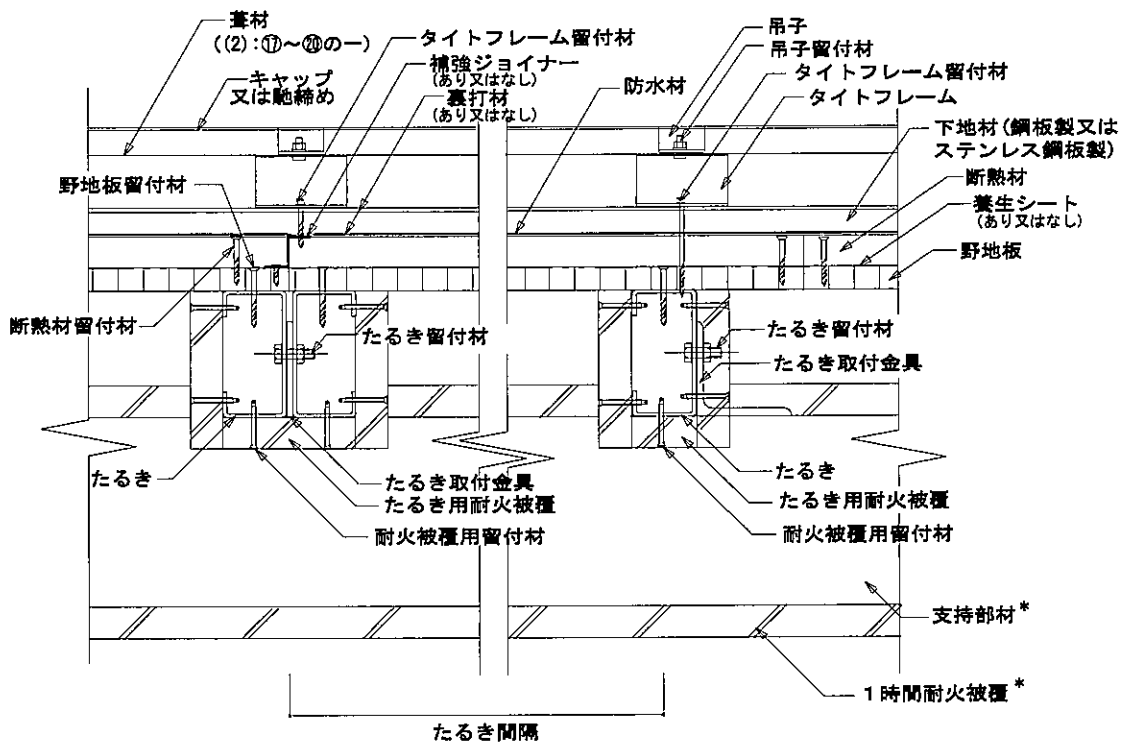


図1 構造説明図(折板葦仕様)



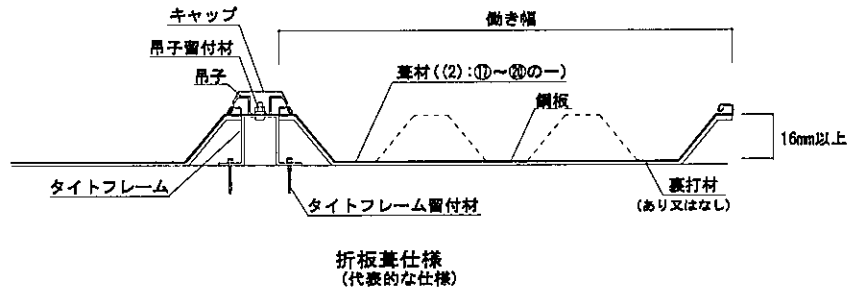
A-A' 断面詳細図



B-B' 断面詳細図

* : 評価対象外

図2 構造説明図(折板葦仕様)



**〔葺材(2)-⑰~⑳亜鉛合金板張/鋼板仕様
: NE-0040~NE-0047〕**

但し、鋼板：厚さ 0.30mm以上、形状：平板、波形、角形等
塗装(あり又はなし)

亜鉛合金板：厚さ 0.70mm以上、塗装(あり又はなし)

図3 構造説明図

6. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

(1) 下地

- 1) 支持部材は「構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法」とし、支持部材には1時間耐火被覆を施す。但し、平成12年建設省告示第1399号第4号第三号への規定に該当する場合には、耐火被覆を施さなくてもよい。
- 2) たるき取付金具を、たるき間隔607mm以下となるように、母屋等に電気溶接等で取り付ける。
- 3) たるき留付材を用いて、たるきをたるき取付金具に取付ける。
- 4) たるきに耐火被覆を施す仕様の場合
不燃材料の繊維混入けい酸カルシウム板を用いる場合、タッピンねじ等で取付ける。

(2) 野地板の取付け

野地板の仕様には重張又は化粧複合板とする。いずれも以下の施工方法に従う。

- 1) 割付図に従って野地板を配置する。
- 2) 目地部には縦方向(母屋方向)にジョイナーを挿入する。
- 3) 割付図に従って野地板(硬質木片セメント板)を配置する。
- 4) 取付けは野地板留付材を用いて、野地板端部から100mm以内の位置でたるきに留付ける。その間隔は405mm以内とする。なお、留付間隔はたるき位置に合わせて調整する。
- 5) 化粧複合板仕様は、あらかじめ工場において接着剤で化粧板と野地板を張付けた仕様である。

(3) 養生シートを施す場合

野地板の上に養生シートを、重ね代100mm以上となるように敷き込む。

必要に応じてステーブル(工業用ステーブル：JIS A 5556 ステンレス製内幅9.6mm、足長10mm以上)で仮留めする。

(4) 補強ジョイナー(補助たるき)を用いる場合

断熱材の割付図に従い、断熱材の接合部に補強ジョイナーを施し、野地板又は養生シート上に敷き込み、野地板又はたるきに留付ける。

(5) 断熱材の取付

断熱材は割付図に従って、野地板又は養生シート上及び補強ジョイナーの間に、フェノールフォーム板(フクビ化学工業㈱製)を敷き込む。

(6) 防水材の張付

断熱材の上に防水材を、重ね代100mm以上となるように敷き込む。

必要に応じてステーブル(工業用ステーブル：JIS A 5556 ステンレス製内幅9.6mm、足長10mm以上)で仮留めする。

(7) 屋根葺

金属板葺仕様(折板葺)

- ・タイトフレームを留付材を用いて取付け、その上に吊子を留付材で取付ける。
- ・葺材をタイトフレームと吊子に固定する。
- ・キャップを被せ、かしめて固定する。キャップを仕様しない場合は馳締め仕様とする。

(8) 但し、図3に示す鋼板(材料は葺材(2)めっき鋼板の⑰～⑳と同じ)の単板を一体成型した複合板を用い、施工方法は以下の通り。

施工手順(1)～(6)に従い下張施工後の断熱材等の上に、下地材[めっき鋼板製又はステンレス鋼板製](形状：平板、波形板、角形板等)を敷き込み、その上に鋼板の合成(一体成型)された複合板仕様の折板葺を、構造説明図の図3及び(7)屋根葺：金属板葺仕様(折板葺)に従い屋根葺施工をする。